

医療安全管理ニュースレター

日本医科大学千葉北総病院
(第44号)

発行：令和2年12月1日(火)

認知症のある方との安全な生活に向けて

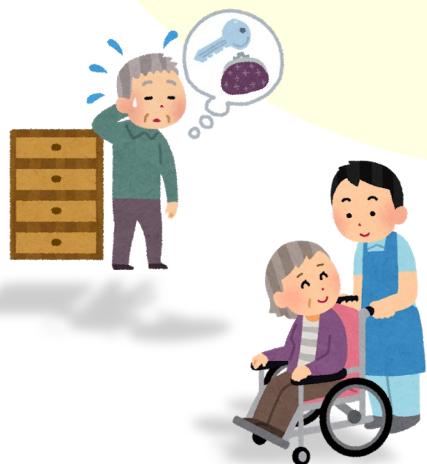
看護部 専門看護師 齋藤多恵子

日本医科大学千葉北総病院は、2020年4月より認知症疾患医療センターに指定されました。認知症疾患医療センターの役割は大きく分けて3つあります。ひとつは、地域の中核病院として他診療所や病院の認知症診療を支援すること。もうひとつは、介護福祉事業者を支援しながら認知症のある方のケアを共に行っていくこと。そして、認知症のある方とその家族の療養生活を直接的に支援することです。

活動としては、地域の医療・介護・福祉分野の専門職の協議会で地域の課題解決に向けて話し合ったり、また、地域包括支援センターと協働して対象者への支援を行っています。当院としての直接的な支援には、認知症に関する電話相談、早期に診断するための専門診療科(神経内科及びメンタルヘルス科もの忘れ外来)受診の調整、専門の心理士・看護師による療養生活についての相談などがあります。相談件数も増加しており、中でも、最近多い相談内容は、認知症のある方が不安や不調を感じたときに現れる行動・精神症状(BPSD)に関することです。例えば、昼夜問わず歩き回ってしまう、感情が不安定で怒りっぽくなる、妄想言動、その他にも生活に支障をきたしてしまうような行動がみられ家族が困っている、近隣で苦情が上がっているなどがあります。認知症のある方の問題となる行動は、脳の障害・生活歴・性格傾向・社会心理(周囲の人間関係)・身体の状態などの複雑な相互作用のなかで生じ、変容します。

新型コロナウイルスの影響が未だに続いている現在のこのような非常事態は、認知症のある方にとっても負荷が高く厳しい状況にあります。一緒に暮らす家族の方へは、「認知症にあるご本人から繰り返し問われることにもその都度同じように応えてください。」などと具体的な対応方法をお伝えしています。とは言っても、今まで何の心配もなく生活していたお父さんやお母さんが、認知症なのではないかということは息子さんや娘さんにとって、とてもストレスが高く、「何でわからないの？」などといふことになってしまうこともあるでしょう。ご家族をサポートすることもまた大事な支援だと私たちは考えています。生活背景も様々で、その方々それぞれに個別の対応が必要になってきます。ご近所でも、近隣住民の方々にも少し意識をして頂いて、「なにか、大変そうだな」「最近様子をみないな」「こんな夜におひとりでお出歩いて大丈夫なのかな」など、少しの気づきで民生委員や管轄の地域包括支援センターへお声をかけて頂くことは、より早期に適切な支援を提供することにつながります。

認知症疾患医療センターとして、当院も地域の医療・介護・福祉と密に連携をとって様々な個別ケースに対応し臨機応変に支援しています。今のような非常事態だからこそ、認知症のある方もそうでない方も、できる限り住み慣れた良い環境で自分らしく暮らしていける真の意味での地域包括支援システムを目指して活動してまいります。



患者さんの安心安全につながる医療情報室の取組み

医療情報室 新橋 尚慶

今回は「患者さんの安心安全につながる私たちの取組み」と題し、医療情報室の取組みの一部をご紹介しますと思います。

1. 医療情報室の仕事と電子カルテ

電子カルテとは、医療者が診療の経過などを記入していた紙カルテを、電子的なシステムに置き換え電子情報として一括して編集・管理し、データベースに記録するシステムです。私たちは、この電子カルテシステムのサーバー機器・ネットワークの管理(監視・障害対応)及びシステム運用支援など、電子カルテを中心に様々な業務を行っています。

2. 電子カルテによる医療安全

電子化する事で読みにくい文字がなくなり、読み間違いによる事故を未然に防ぐ事が可能となりました。また、様々な場面において作業が効率化されるため待ち時間等の短縮が期待されています。その他にも薬剤投与時のオーダーミスなどの事故を未然に防止する事も可能となりました。電子カルテではリアルタイムな情報共有が可能となり、より効率的な医療を提供することに繋がります。また、医師からの指示内容や実施記録、検査結果や投薬情報などがわかりやすく表示され、紙カルテで起こりやすい書き間違いや読み間違いを防ぎ、安全対策の一助にもなっています。

次に、システム管理者側から見るうっかりエラーの種類は多々あります。例えば「後で電話しようと思って忘れてしまった」といったすべきことを忘れてしまう「省略エラー」、疲れなどが原因で注意力散漫になっている時に起こりやすくなり、しなくてもいいことまでしてしまう「不注意エラー」、「エレベーターを降りたら違う階だった」といった「無意識的エラー」、「8時と言われたから朝8時だと思っていたのに、夜8時のことだった」といった「勘違いや早とちりエラー」など。

システムを扱う部署でもエラーを起こしやすい状況

知らない経路不足 不関係	機器経路 慣れ	不注意
連絡不足	集団欠陥	近道行動 省略行動
場面 行動本能	パニック	錯覚
機能低下	疲労	意識低下

日本医科大学千葉北総病院

これらのエラーは、あらかじめ作成させた雛形に沿って入力することで、実施漏れや入力漏れを防ぎ入力情報を統一するなど、システムを通じた対策を行い患者さんの大切な情報を扱っています。

3. 診療を止めない新しいネットワーク構成の導入

当院で診療時間中に一部の電子カルテが使えなくなった事があります。繋いではいけない機器にネットワーク用ケーブルを繋いでしまったことによる通信のループ状態が原因でした。接続されたケーブルを特定するのに時間を要してしまい対策に課題があることを痛感しました。そこで、従来の電子カルテネットワークから「止まらないネットワーク」をテーマに、各システムを繋ぐネットワークに重点を置き、自動復旧や障害時の機器の交換の時間短縮を可能とするネットワークへ更改しました。ネットワークの更改により、安定した診療の環境が提供出来るようになりました。

最後になりますが、患者さんの安全を確保することは、安心して質の良い医療を提供することが基本です。当院のテーマである「All for One」の精神で患者さんに元気になっていただくために、引き続き様々な取り組みや努力を行ってまいります。どうぞ安心して病院に来ていただきたいと思ひます。最後までお読み頂き有難うございました。

ケーブルはむやみにささないでの巻

あ、抜けてる・・・

抜けているケーブルが目前の機器に刺すものとは限りません

プチッ

てきとーにさしちゃえー!

あっ……!!!!

指示が出来ない、データが定せない

電子カルテつながらない

うっかりエラーによりこんな影響が!!!

ケーブルは抜けている状態でもむやみにささないで!!

日本医科大学千葉北総病院



師走に入り、オリンピック・パラリンピックイヤーであったはずの本年も、そろそろ終わろうとしています。新型コロナウイルスによる新規患者は毎日のように発生し、感染はいまだに広がりつつあり、いつまで続くのかと危惧する次第です。さて今回のニュースレターでは、専門看護師・齋藤さんには認知症の方との安全な生活に向けての活動について、また医療情報室・新橋さんには医療情報室の取組みについてご寄稿いただきました。実際の活動等、また普段当たり前のようになっているネットワーク管理について、わかりやすい内容となっています。ご寄稿、ありがとうございました。まだまだ新型コロナウイルスの影響が続くと思われます。1日も早く収束することを願いつつ、季節性インフルエンザの時期でもあり、手指衛生、うがい、マスク着用が必要となりますので、引き続き感染対策をよろしくお願ひいたします。片山靖史・記

【ご意見募集】 皆さまのご意見をお待ちしております。

電子メールアドレス h-newsletter@nms.ac.jp

【お知らせ】 当院のホームページから閲覧できます。

ホームページアドレス <https://www.nms.ac.jp/hokuso-h/>

【編集担当】

医療安全管理ニュースレター編集委員会